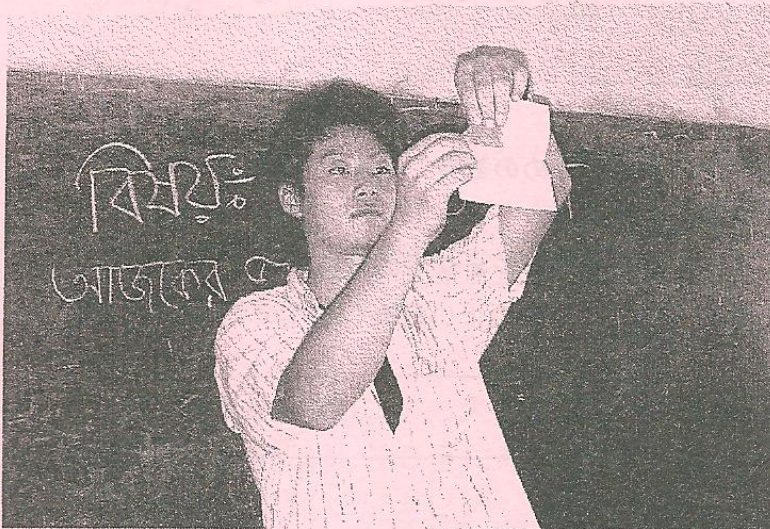


ミロン

No.115
September
2008



(2008年現地訪問の1コマ：現地小学校にて折り紙を紹介している様子。
紙飛行機は飛んだかな?)

特定非営利活動法人 バングラデシュと手をつなぐ会
福岡市早良区西新5-4-20
TEL&FAX: 092-844-1369
ホームページ: <http://bangla.nngo.jp>

※「ミロン」は一つになる、手をつなぐという意味のベンガル語です。

特定非営利活動法人 **バングラデシュと手をつなぐ会**

バングラデシュ西部のメヘルプール県・カラムディ村やその周辺地域で
 現地の村人による開発のための委員会「シヨンダニ・シヨンスタ」と協力して
 《教育》 《保健医療》 《生活向上》 の分野で協力活動を行っています。

現地での活動

バングラデシュと手をつなぐ会では、現地NGO「シヨンダニ・シヨンスタ」に毎年活動資金を提供。
 相互のパートナーシップのもとに現地活動を支援しています。

*現地で「シヨンダニ・シヨンスタ」は、主に次のような活動をしています。

教育

- ① ジャパニ小学校の建設とその後の運営支援～“みんなのための教育”を！
- ② 貧しくて学校へ行けない子どものために奨学金制度の実施
- ③ 就学に必要な費用を得るための支援として仔牛の奨学金プロジェクトの実施
- ④ シヨンダニ・スクール（小・中・高校）の建設・運営～“質のよい教育”を！

保健医療

- ① 妊婦健診や出産、産後のフォローや一般診療を行う母子保健センターの建設・運営
- ② カラムディ村の近隣の村々にソーシャルワーカーが赴き巡回健診
- ③ カラムディ村から遠い村にも拠点を置き定期的に出張診療（サテライト・クリニック）
- ④ 医療設備の充実、緊急患者対応のための救急車の配備

生活向上

- ① 生活に必要な収入が得られるよう支援する肉牛貸し出しプロジェクト
- ② 村の女性を対象に、足踏みミシンの職業訓練

国内での活動

これら現地の活動は、関心を寄せてくださる多くの方々のご理解とご協力に支えられています。
 そのような支援の輪をより広げるため、国内では次のような活動を行っています。

- ① 総会（毎年5月）、理事会（毎月2回）、事務局による活動方針の決定や運営
- ② 会報誌『ミロン』を年4回発行
- ③ 現地訪問やスタディツアーの開催と、その報告会開催や報告書などの作成
- ④ 学習会、バングラ料理教室、チャリティコンサート、チャリティバザーの開催
- ⑤ 出張講師や各種イベントでのブース出展などにより、活動紹介などを行う

現地訪問を終えて

2008年の現地訪問が無事、終了しました。参加者6名、元気で帰国しました。

雨季のバングラは、毎日ではありませんが、雨に見舞われます。しかし、カラムディ村滞在の後半は天候に恵まれ、夜はすばらしい星空でした。天の川や織り姫、彦星を眺めながら、村の将来や日本に思いを馳せました。

シオンダニの活動は、いろいろな問題をはらみながらも、着実に歩みを進めています。

母子保健センターは、昨年退職したサイド医師の代わりに、今年からチョヨン医師が着任しました。まだ経験の浅い医師ですが、コミュニティでの活動に次第に興味を示しています。全国的な規制強化の流れの中で、母子保健センターも困難を抱えていますが、スタッフはしっかりと踏ん張っています。厳しい環境の中でこそ、コミュニティ・ベイスト・ホスピタルの役割がはっきりしてきたと感じました。

久しぶりにカラムディ中学校も訪問しました。これまでシオンダニとの関係が不十分だったカラムディ中ですが、教師たちも温かく迎えてくれ、前向きな話し合いができました。教育の質が問題となっているジャパニ小学校も、親たちが立ち上がり、改革の動きが見られるようです。

今年の現地訪問には、大学生3人が参加しました。それぞれに大きな体験になったようです。新鮮な彼らの目に映ったバングラデシュの村、人々、暮らし・・・彼らの感想も、どうぞご覧ください。

10月5日(日)の現地訪問報告会、現地訪問の報告書をお楽しみに。

(二ノ坂 保喜)

ミロン115号目次	
あいさつと目次	1
現地訪問報告・1 (カラムディは今)	2~3
現地訪問報告・2 (新たな瞳)	4~5
チャリティコンサート報告 (福岡・長崎)	6
照葉オカリナコンサート報告/スタディツアー合同説明会	7
招聘事業・20周年記念事業について	8
会計報告/活動予定	9
お知らせ: ①現地訪問報告会 ②秋のチャリティバザー	裏表紙

【2008年現地訪問報告】カラムディは今!

* 現地訪問を終えて *** ラフマン・モクレスール *

例年通り今年も8月16日から26日まで6名のメンバーで現地に行ってきました。6名のうち3名は二十歳前後(大学生)で、残りの3名は50代です。おかげで平均年齢が下がり、若返りました。

8月16日福岡を出発し、バンコクで一泊。空港からまっすぐ市内観光へ。閉館間際の Watpo の大仏像や他のいくつかの観光スポットを見学。川沿いのレストランで夕食も楽しみました。その後ホテルに戻り、翌朝ダッカへ出発。今年はダッカに泊まらず、空港からそのままバス停へ。6時間以上かけて村へ到着した時には既に真っ暗になっていました。久しぶりに夜間のバスに乗った気分は、冒険の気持ちが半分、心配が半分。道路の両側には並木や溝があります。バスが木にぶつかるのではないかと、あるいは溝にはまるのではないかと心配でした。しかし何事もなく、無事村に着き、ほっとしました。

村での活動ですが、母子保健センターの報告を受け、サテライトクリニックやジャパニ小学校、ションダニスクールを訪問しました。村に出て行き、できるだけ多くの村人の生の声を聞くようにしました。訪問団員の学生たちは、数名の地域出身の大学生と一緒にクシュティアイスラム大学に行き、学生同士の交流を深めました。また手をつなぐ会が今年福岡市市民国際貢献賞を受賞したことを現地NGOションダニ・ションスタも喜び、カラムディ小学校のホールで地域住民による歓迎会が開催されました。改めて国際貢献賞受賞の価値や重要性を認識しながら、村人と一緒に喜びを共有しました。

今年久しぶりにカラムディ中学校にも行きました。定期試験中だったので残念ながら学生と話す機会はありませんでしたが、その分先生達とゆっくり話をし、いろんなことが分かりました。印象に残っているのは、「学生は今試験中にカンニングや不正を忘れていた」という発言です。独立以来90年代半ばまで、学生達はあまり勉強せず、教育委員会による国家試験ではカンニングが頻繁に行われました。その後状況が変わり、学生や保護者達が、能力がなければ大学にも入れないし、就職もできないという厳しい現実を理解するようになったということです。以前と比べて学生の欠席率も減り、成績評価方法も変わりました。

また、村にいる間に3人の大学生と会いました。3人とも中学校入学以来ずっとションダニから奨学金を受けて高校を卒業、大学に進学しました。一人は医科大学、一人は工科大学、もう一人は農業大学に入学した1年生です。私たちの今までの努力や地道な支援がやっと実ったと感じました。

総合的に言えば、国全体が今、学歴社会に向かって急速に走っており、村の若者達もそのスピードに合わせてようとしています。問題もたくさんありますが、質の良い教育を求めて学生も保護者も真剣です。教育はこれからどのような方向に向かうのか、先進国の過ちを繰り返さないことを望んでいます。

(詳しい内容は現地訪問報告書を参照してください)。

* 2008年カラムディ村の保健医療はますます厳しい *** ニ/坂 保喜*

厳しい医療環境

昨年からカラムディ村の母子保健センターを巡って、厳しい風が吹いています。これは、バングラデシュ全体の医療の問題です。昨年から軍をバックにした暫定政権が、改革路線を推し進めています。これまでの政党政治の腐敗がひどく、腐敗一掃、が新政治の目的です。医療界も腐敗、不正が横行し、医師や看護師もいない病院で、金儲けのために手術を行うということが行われていたようです。(驚くことですが、日本でも「富士見産婦人科病院事件」など同じことが行われていたのですよ。)

暫定政権の改革路線で不正は少なくなったようですが、何しろそのやり方は強引。軍がバックですから、有無を言わず推し進めます。医療機関は、10 ベッドあたり、医師 3 人、看護師 6 人・・・など日本でもとても実現できない基準を押しつけてきます。もちろん医師が 1 人か 2 人でやっと運営してきた母子保健センターなど、とても基準を満たすことは不可能です。

おまけに、そのために都会の大きな病院に医師や看護師が高給で引き抜かれ、田舎には医師がいない状況となりました。(これも今の日本の「医療崩壊」と同じ)

新しい医師が着任しました

昨年サイド医師が辞職してから、医師の席はしばらく空白でしたが、今年 1 月からチョヨン医師が着任しました。卒後 2 年の若い医師で、コミュニティでの活動は初めてで、まだ戸惑っているようです。何度か話をし、次第にションダニの活動、フィールドワークに興味を持ってきたようです。



コミュニティ医療の原点を確認

正看護師もいなくなり、准看護師 3 人だけになって、24 時間体制の病院勤務を維持するので精一杯。

カラムディ村の中の巡回検診まで手が回りません。しかし村周辺のサテライトクリニックは、ヘルスコーディネーターのエクラムルや、ソーシャルワーカーたちを中心に継続しています。



サテライトクリニックや村のあちこちで、「帝王切開や手術のできる病院がほしい」という声が聞かれました。しかし、そのためのスタッフや設備をそろえるには、さらに多くの財源が必要です。お金をつぎ込んで、立派な設備の病院を作ることが我々の目標だろうか?と、医師や病院スタッフと話し合いました。逆に、村人の健康意識を高め、自分たちの健康は自分たちで守る、という活動を柱とし、病院では基礎的な病気の治

療と出産の管理を行う、というのが、コミュニティに根ざした保健医療活動であり、それが母子保健センターの役割ではないか、と確認しました。

毎年のことながら、現地に行ってこそ知ること・得ること・感じることもあるものです。

近い将来、ションダニと手をつなぐ会がネット定例会をするようになったとしても、

やっぱり現地訪問は、なくならない気がします。

【2008年 現地訪問報告】 新たな瞳！

～初訪問の皆さんの視点から～

初めてバングラデシュをおとずれた人たちに、カラムディ村はどのように映ったのでしょうか？
若い皆さんは、そこから何を感じたのでしょうか？
初訪問の皆さんの素直な感想を、ぜひご覧下さい。

* バングラデシュという国 *** 吉田 茜 (大学2年生) *

初めてのバングラデシュでの生活は、すごく新鮮で、いろいろなことを考え直すきっかけとなった、非常に有意義な時間となりました。

日本を出発するまで、私のバングラデシュに対するイメージは「危険」「貧しい」というマイナスのものが大きかったように思われます。どんな国なのか、どんな人たちが住んでいるのか、ほとんど無知でした。だからこそ、カラムディ村の人々、自然、暮らしを見たとき、人々の寛大さに感動し、その自然に癒され、ともに暮らすことで「生きる」ということを実感することができました。

日本は物質的にはすごく豊かで、生活に不自由することはありません。だけど、なぜか「心の余裕」がない。カラムディ村には、そんな多くの日本人に欠けているものを持っている素晴らしい人々で溢れていました。自分の村や学校や様々なものに誇りを持って生きていること、幸せだということに気づき感謝できること、それが素晴らしいと感じました。そんなことを考える余裕もないくらい坦々と毎日を過ごしていた私にとって、村での日々は私にたくさんの笑顔と感謝の気持ちをくれた素敵な場所でした。

バングラデシュという国をもっと知りたい。今はそんな気持ちでいっぱいです。

* 戦後と現代が混ざり合った場所 *** 河崎 大樹 (大学一年生) *

今回のバングラデシュへの現地訪問が、私の初めての海外旅行となりました。初海外！それもバングラデシュ！期待と不安がいっぱいでした。バングラデシュには怖いイメージしかなかったけれど、現地に行って、やはり怖いと感じたことも多々ありましたが、本当にいい経験になったと思います。

バングラデシュは日本の戦後 4～5 年後の風景を語っているということをメンバーに聞きました。村に着いた時には、こんなところで過ごさないかんといいブルーな気持ちになりました。メンバーにも迷惑をかけてしまったこともありましたが、しかし、村の人々はとても親切で、言葉が通じないなりに楽しく交流することができました。

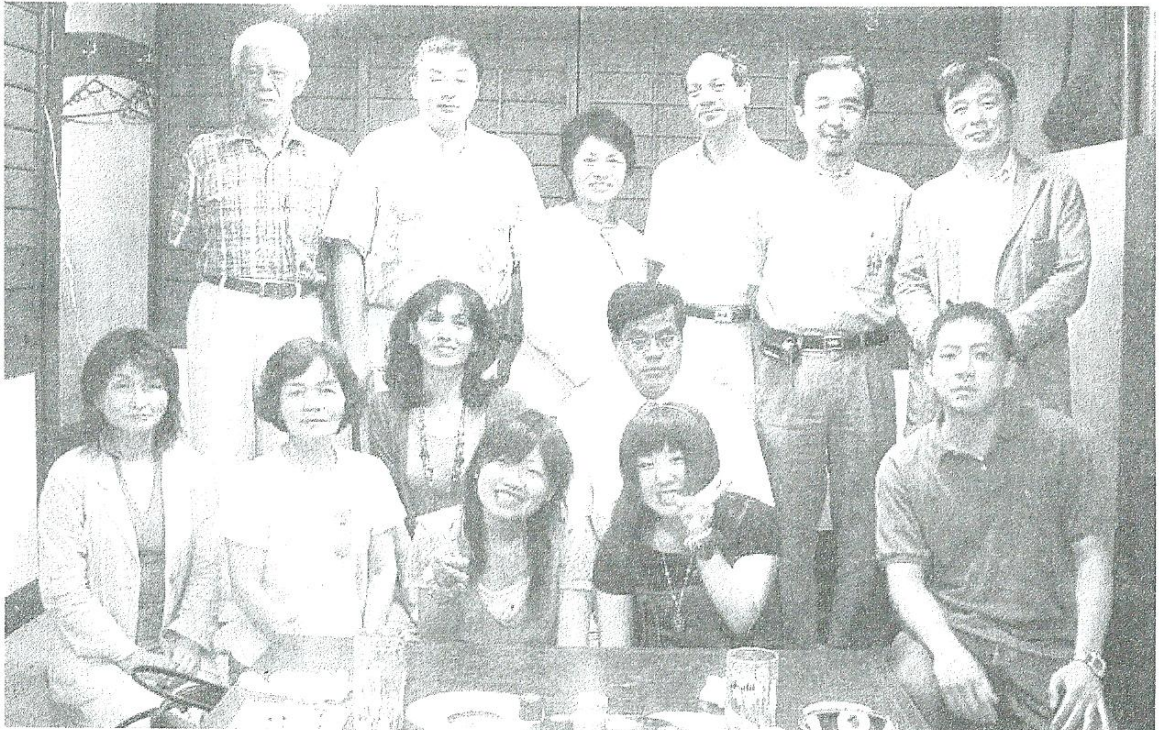
初めてのバングラデシュは、いろいろ大変だったけど、とても印象深かったです。行ってよかったという気持ちと共に親への感謝の気持ちを持ちました。

* 私が見たバングラデシュ *** 芝生 嘉恵 (大学2年生) *

今回のバングラデシュの現地訪問は一言でまとめると本当に楽しかった。単純に、そう思えた 10 日間でした。

実際にバングラデシュに行く前は、この国のことを貧しい国だと思っていました。人々は毎日苦しい中で生活していると思っていました。でも、今はそんな思いはありません。確かにダッカとか大きい都市に行くと物乞いの人がいったりして、豊かな国であるとは言い難いかもしれませんが、しかし、この国の人々は日本のような豊かな暮らしがない状況でも、生き生きと輝いて生きているように見えました。私たちに笑顔で、本当に親切に接してくれました。多くの日本人は人と接する時に、どこか自分を守ったり、自分の中に壁をつくってしまったり、自分の意見をはっきり言わなかったりしますが、バングラデシュの人たちはそのような壁をつくらず、国も宗教も言葉も違う私たちに同じように接してくれたことが本当にうれしかったです。

この国では、バスが予定時刻よりも何時間も遅れて目的地に着いたり日本では考えられないくらいマイペースです。でも、今はそんなマイペースなバングラデシュの人々が大好きです。



(写真↑：現地訪問の壮行会から一枚拝借。会のみんなに見送られ、元気に出発した6人です)

……元気に出発した6人がどんな10日間を過ごしたのか、バングラデシュの現在の状況はどうなっているのか、村人たちはどうしているのか……

現地訪問報告会は 10月5日(日) 14:00~16:30 (開場 13:30)

ももちパレス 第二研修室 にて開催します。

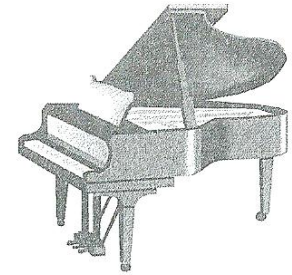
宮坂純子さんを始めとする演奏家の皆さんのご協力により開催されるチャリティーコンサートが今年も福岡と長崎で開催されました。

音楽を楽しみながら、会のことを知っていただけるあたたかな時間となりました。

活動報告・チャリティーコンサートin福岡

7月13日(日)九州キリスト教会館(福岡市中央区舞鶴2丁目)に於いて、『バングラデシュと手をつなぐ会創立20周年記念チャリティーコンサート 高田あずみ&宮坂純子デュオリサイタルヴァイオリンが奏でる名曲の調べ』を開催いたしました。

演奏会の前に会の歴史や活動の紹介をさせていただき、高音から低音まで心のひだに染み渡るようなヴァイオリンとピアノの音色に、参加者は時の経つのを忘れるようでした。コンサート会場では民芸品、紅茶、募金箱にたくさんの寄付をいただき、ありがとうございました。(中島)



活動報告・チャリティーコンサートin長崎

7月12日(土)長崎の「バングラディッシュの母子保健センターを支援する会」主催のチャリティーコンサートが開催されました。福岡からはラフマンさん、二ノ坂夫人、堀さんと私(杉園)の4名が参加し、それぞれ報告、カメラ、ビデオ、紅茶の販売と受け持ちました。

今回のコンサートは、ホテルニュータングにて開催され、皆さんそれぞれにおしゃれな装いで多くの参加がみられ、コンサートの雰囲気は充分な盛り上がりようでした。

私は受付の手伝いと紅茶の販売をロビーでしておりましたので、会場内でゆっくりと聴くことが出来ずに残念でしたが、モーツァルト、バッハ、クライスラーと次々に流れる旋律を時々漏れ聴くことができました。

ヴァイオリンの高田あずみさんは幼少のころから英才教育を受けられて、国際コンクールの入賞や多くのオーケストラと競演されており、現在は大学の講師や、バッハコレギウム・ジャパンのコンサート・マスターも努めておられる方で、実は6月に開催されたアクロス福岡での演奏会の折に、私はじっくりと聴かせていただいていたのです。ピアノはいつもの宮坂純子さんです。お二人の息のあった演奏が美しいハーモニーを奏でて、訪れた方たちはしばし酔いしれておられた様でした。

やはり、生で聴く音楽はFMラジオやCDで聴くのと違った音色や、演奏者の雰囲気から曲の内容を想像することが出来て、2倍3倍の楽しみを味わい、楽しむことが出来ます。出演されたお二人はもちろん、長崎の関係者の方々、会場に来てくださった皆さんありがとうございました。最後に紅茶も沢山買ってくださいありがとうございました。(杉園)

活動報告・大成功に終わったオカリナコンサート

6月22日、アイランドシティ中央公園・北ブロックフリースペースで、バングラデシュと手をつなぐ会とオカリナグループ「ひまわり」の共催で、照葉オカリナ・コンサートを開催しました。

第一部で二ノ坂クリニックから生まれたオカリナグループ「ひまわり」の合奏と各メンバーの演奏、第二部でバングラデシュと手をつなぐ会の紹介、活動報告を二ノ坂代表及びラフマン理事が行いました。

このコンサートは、ラフマン理事が照葉の住人となり、ある時、公園を散策しながら、「ここで、皆で音楽を聴いたり、母国バングラデシュの話をしたり、会の紹介や活動報告が出来ないものかな」という思いから生まれたものですが、照葉の住民や会員、バングラデシュから日本に来ている人々など100人以上の人々が訪れてくれました。

最後に、会場費(6,000円)及び会への支援カンパを訴えたところ、17,877円が寄せられ大成功に終わりました。

(木村)



活動報告・スタディツアー合同説明会

6月21日(土)17:30から、(特活)NGO福岡ネットワーク(FUNN)主催のスタディツアー合同説明会が、福岡市人権啓発センター(ココロンセンター)10F研修室にて開催されました。

第1部では、スタディツアー研究会代表の米山敏弘さんによる「危機管理セミナー」が行われ、インド、インドネシアでのスタディツアーにおいて実際に起こった事故事例(例えば、ツアー途中で病気にかかったとか、荷物が盗難に遭ったなど)を交えながらお話をいただきました。危機管理の基本は「事故回避」で、これができるかできないかで、スタディツアーが楽しく、有意義なものになるかどうかが決まることでしょう。

(講演をされる米山さん→)



第2部では、FUNN会員団体のうちスタディツアーを実施している6団体と、FUNN非会員団体2団体がブースを出展して、スタディツアー参加希望者に説明していました。当会もブースを出展し、木村理事、杉園理事、矢野理事、中島さん、堀の5名が参加しました。生憎の天気で、ツアー参加希望者が少なかったのですが、彼らは真剣に説明を聞いていました。(堀)

(参加希望者への説明の様子→)



招聘事業・20周年記念事業について

すでにお知らせしたように、バングラデシュと手をつなぐ会は1989年に「バングラデシュに小学校をつくる会」から発展して誕生し、今年度は、ちょうど20周年にあたります。記念すべき年に、福岡市市民国際貢献賞を受賞することができました。

20年の歩みを振り返りながら、成功と失敗、そして未来を見つめて行きたいと思っています。そのための『20周年記念事業』として、二つの事業を考えています。

現地スタッフの招聘事業

第一に、現地のスタッフを日本に招いて、日本の様子を知ってもらうと同時に、日本の会員の方たちと交流し、語り合う機会を持ちたいと考えています。また、一般市民や、ほかのNGO活動に携わっている方たちにも、現地のこと、村人の思い、村の生活の変化などを語ってもらいたいと思います。

来年の2月頃に、カラムディ村母子保健センターのヘルスコーディネーター・エクラムルと、シヨンダニ学校のハビブ校長の二人を日本に招き、各地で講演や交流会を開きたいと思います。また日本の医療現場や教育現場の見学や研修を行う予定です。

皆様にも、イベントへの参加や、研修場所の提供、案内など、是非ご協力をお願いします。

20周年記念講演会またはシンポジウム

じっくりと私たちの歩みを振り返り、これからのことを考えたいと思います。具体的な内容、構成、日程や会場などはまだこれからですが、自分たちの活動を振り返り、現地の思いを共有し、これからの未来を切り開くような、そんな会合にしたいと思います。ほかのNGO団体とも協力して、共通の課題などを探ることも有意義かもしれません。

皆さんからも、こんな人呼びたい、こんな人と話してみたい、こんな内容がほしい、といったアイデアを是非お寄せください。

バングラデシュの歌手 フォリダ・パルビーンさんが 第19回福岡アジア文化賞を受賞しました！

アジアの多様な芸術・文化の育成又は発展に貢献した方に授与される福岡アジア文化賞。今年の芸術文化賞にバングラデシュの女性歌手であるフォリダ・パルビーンさんが選ばれました！

フォリダ・パルビーンさんは、ベンガル地方の伝統的な宗教歌謡パウル・ソングを現代に蘇らせるとともに、テレビや映画をはじめ、国際的にも活躍しているバングラデシュを代表する歌手で、日本での公演経験もあります。

このようにバングラデシュやバングラデシュ人がクローズアップされる度、私たちの住む福岡とバングラデシュにまたひとつの橋が架かったように感じ、嬉しく思います。

<会計報告>

※募金協力 (敬称略)

トミタケイコ 五箇山豆腐店 古小保ハルミ 杉園順代 野呂やす子 緑川泰正 井出喜怒子
 内田美智子 宮辰建設(株)あゆみの会 今給黎靖子 コンサート会場 渋谷洋子 松田ゆう子
 オカリナグループひまわり 波多江伸子 荒瀬菊子 坂田節子 加藤秀子 立石トモエ 西島孝義

※旅費のカンパ (敬称略)

一寸法師 坂本キミ子 能木啓次 石川晶子 二ノ坂保喜 吉田茜 今給黎靖子
 芝生嘉恵 河崎大樹 西田和子

※ 新会員紹介 (敬称略)

木村剋子 渋谷洋子 市田嘉昭

<8月25日現在>

ご協力ありがとうございます m(_)_m

これからの行事予定



月 日	時 間	内 容	場 所
9月4日(木)	19:00~	理事会	西新事務所
9月18日(木)	19:00~	理事会	西新事務所
9月23日(火)		報告書印刷	にのさかクリニック
10月5日(日)	14:00~	報告会	ももちパレス
10月9日(木)	19:00~	理事会	西新事務所
10月23日(木)	19:00~	理事会	西新事務所
10月25日(土)	14:00~	値札付け	にのさかクリニック 2F 別室
10月26日(日)	12:30~ 13:00~	オカリナミニコンサート 秋のチャリティバザー	にのさかクリニック 駐車場

※ 集めています。

- 未使用の切手やはがき、書き損じのはがきを集めています。
- バザーで販売する提供品を集めています。おうちで使わずに眠っている品物などありましたら、ぜひご提供ください。提供品は、にのさかクリニックか西新事務所にお持ちください。

※ ボランティア募集

- バザー提供品に値札を付ける作業、およびバザー当日の売り子のお手伝いをしてくださる方を募集しています。ご都合のつく方、ぜひ下記までご連絡下さい。
※連絡先：にのさかクリニック ☎092-872-1136・事務所 FAX092-844-136

2008年現地訪問報告会開催

右の写真を見てください。
 2008年8月16日のダッカ空港での様子です。
 彼らはその後、どうなってしまうのか……..
 エキサイティングな10日間の報告を
 みんなで聞こうではありませんか！
 日々変わるバングラデシュの“今”をキャッチ！



- 日にち：10月5日(日)
- 時間：14:00~16:30 (開場 13:30)
- 場所：ももちパレス 第二研修室 (福岡市早良区百道2-3-15)
- 参加費：無料



オカリナミニコンサート &

秋のチャリティーバザー開催！

恒例、秋のチャリティーバザーの季節がまたやってきました。
 多くの方のご来場をお待ちしております。
 また、あわせましてバザー商品のご提供、及び前日の値付け・当日の売り子ボランティアも募集しています！

- 日にち：10月26日(日)
- 時間：12:30~ オカリナコンサート
13:00~15:00 バザー
- 場所：にのさかクリニック駐車場
(福岡市早良区野芥4丁目19番地 成住ビル横)

.....
 【申込み・問合せ】

(特活) バングラデシュと手をつなぐ会

TEL：092-872-1136 (にのさかクリニック)

.....

